



令和4年元旦 初日の出

聖明福祉会報

第302号

令和4年2月

〒一九八一八五三一 東京都
青梅市根ヶ布二ノ七二二
聖明福祉協会
編集発行人 本間清郷
(〇四二八)二四五七〇〇
印刷(有)米澤印刷所

巻頭言



昨年の令和三年三月は、私にとって大きな転換期となった出来事がありました。

三月二十七日、その日は昼頃から体調が優れず、午後になると強い腹痛に襲われるようになりました。大変不安になり、医療関係の友人に電話で相談したところ、「すぐに病院に行った方がいい」と言われ、すぐさま高木病院の救急外来を受診することになりました。すると医師から「緊急入院をするように」と指示を受けたのです。緊急入院という言葉に大変驚き、妻と顔を見合わせたことを鮮明に覚えています。

入院当日には検査が行われました。その検査中にも強い腹痛に襲われ、どんどん痛みが増していきました。検査が終わり病室に戻ると、すぐさま点滴がは

じまりました。それは絶食期間の始まりを意味していました。病名は、急性膵臓炎と医師から告げられ、暫く入院の必要があると告げられてしまいました。

実はその時期、当法人でも大きな転換期を迎えていました。それは聖明園富士見荘の全面改築工事です。工事期間中の真ただ中での入院騒ぎであったため、多数予定されていた業者との打ち合わせを、法人理事である鈴木富士見荘園長や島田法人事務局長に任せ、細かな打ち合わせについては電話で行いました。さらに法人の決裁業務では、多くの職員に大変な迷惑をかけてしまいました。

不自由な入院生活の中で、希望が少しずつ見えて来たのが二十一日目頃からでした。食事が、おもゆ↓全粥↓中粥↓お粥↓常食へと変化し、回復していることを実感しました。そしてようやく四月二十九日に退院の許可を医師から告げられました。入院中は、新型コロナウイルス感染予防のため、妻とは直接対面する面会はできませんでした。病院の共用スペースから電

話をし、必要な物を取り寄せるなど、痒いところに手が届かないという状態が続き、大変不自由な生活でした。ですが、それは同時に、今までの不摂生な自分の生活を反省する期間になりました。入院日を含め三日間は、猛烈な痛みと闘い、残りの入院期間は暴飲・暴食に近い生活をしていただくことを猛省する日々となりました。約三〇〇名のご利用者の明るい老後や環境の維持、そして一五〇名程の職員の安心できる労働環境の確保のため、自分を律することを誓いました。その意味では、今回の入院の経験は、私にとって大きな転換期となりました。

入院中、高木病院の医師や看護師そしてスタッフの皆様には、温かく看護をしてくださり、不安なく入院生活を送れたことに、深く感謝を申し上げます。そして、並々ならぬ心配をしてくれた職員の皆様には、深い感謝とお詫びを申し上げます。

最後に、新型コロナウイルス感染症は未だ収束する兆しが見えませんが、一日も早く、日本全体に以前のような日常が戻って

くることを願うばかりです。

(理事長 本間清郷)

富士見荘建て替え工事 進捗状況報告

聖明園富士見荘建て替え工事も最終段階に入りました。十一月三十日に東京都福祉局の竣工検査を無事に終え、十二月十日に建物の引き渡しを受けました。その後、早速にご家族への内覧会を実施して、これからの始まるご入居者さまの新たな生活スタイルとケア提供方法について、ご理解をいただく機会としました。また、一月十二日から三日間、市内の居宅サービス事業所や高齢者施設関係者、市役所、地域自治会、ボランティア等の皆様にも内覧会をご案内して、引越し前にご覧いただきました。

ただきました。

現在は、インターネット環境の整備や、ケアコールシステム・見守りシステム等のOA機

器の調整など、二月一日の開設に向けて、最終準備を進めていきます。

(業務執行理事 鈴木豊)

富士見荘建て替え工事 進捗状況報告その六

九月

電線等埋設工事
受水槽新設工事

十月

受水槽切換工事
厨房設備最終設置
家具等備品購入調整

十一月

青梅市一人に優しいまちづくり申請
足場・防護幕の撤去
ユニット内個浴槽の設置完了

十六日 指定審査機構の仮使用検査

十九日 青梅市一人に優しいまちづくり検査

十九日 施主(法人)検査

三十日 東京都竣工検査

十二月

十日 建物引き渡し

十七日 家族内覧会(十九日)

二十二日 施設変更届の申請

二十七日 西多摩保健所厨房立入検査

一月

十二日 内覧会(十四日)

十八日 建物取り扱い説明会

二十日 竣工祭神事・旧舎屋の感謝
引越・解体安全祈願



聖明園曙荘

敬老の集い



九月八日(水)敬老の集いが行われました。コロナウイルス感染症対策のため、セレモニーは放送にて行い、会長よりお祝いの言葉をいただきました。昼食は敬老お祝い膳として茸と栗の炊き込みおこわや金目鯛の西京焼きなど、そしてデザートはワインゼリー、巨峰、青梅の芋羊羹、抹茶ティラミス、みたらし団子からお好きなものを選んで召し上がっていただきました。みな

さんお腹いっぱいになっても甘いものは別腹と、デザートのおかわりをされ色々な味を楽しまれていました。

今年度は九十歳を迎えられる方が二名いらっしゃいました。こんなにお祝いされたのは初めてだよと、少し照れくさそうにお祝いの花束を受け取られていました。

(曙荘生活相談員)

新米と炭火焼きのさんまを楽しむ昼食会

炭火で焼いたさんま、そして炊きたての新米・・・それは、私たち日本人の遥か昔からある五感を目覚めさせ、郷愁に身が包まれる感覚を覚えます。

誰もが、大好きな、日本人に生まれて良かったと思える味です。今年も、無事に新米と炭焼きのさんまを楽しむ会を行う事ができました。

利用者の皆さんは、普段食の細かい方や食欲のない方も、自然と笑みがこぼれ、意欲的に召し上がっていらっしゃいました。そんな風景は私たち職員にとっても、かけがえのない喜びにあ

ふれたもの、と同時に“食”がいかに人の心を豊かにさせるのかを実感させられたひと時となりました。

(曙荘生活相談員)



クリスマス会



今年度も様々な行事が自粛される中行われたクリスマス会は、どんなにか利用者の皆さんが心待ちにされていたか想像に難くありません。クリスマスに相応しい華やかな昼食、そして午後にはお楽しみ抽選会が行われ、趣向を凝らした景品を手にした利用者の皆さんの久しぶり

の笑顔に私たち職員も幸せな気持ちになりました。来年度のクリスマスや忘年会はコロナの心配無く開催できることを願ってやみません。

(曙荘生活相談員)



曙荘の利用者の仁平章夫さんが取材を受け、西多摩新聞に掲載されました。

幸せ呼ぶ「銀の蜘蛛」

65歳から視力失った仁平さんが手作り



曙荘生活相談員 西多摩新聞に掲載されました。仁平さんは65歳から視力を失ったが、手先が器用で、蜘蛛の形をした銀の蜘蛛を作っています。...



仁平さんの「銀の蜘蛛」

仁平章夫さんはアルミホイルでクモを作成しています。始まりは以前利用されていたデイサービスで作品展が開かれることになり、何か出品しようと思いついたのがこのクモだったそうです。...

「たのしい」と話されています。園に小学生など子供たちが訪ねて来た時、仁平さんは作りためておいたクモを子供たちにプレゼントされていました。...

もとに幸せを呼んでくれるといいですねと話されていました。(曙荘生活相談員)

聖明園寿荘

旅介オンライン 出雲大社の旅



新型コロナウイルスが再び蔓延し、様々な制限を強いられる中でも、利用者様には出来る限り楽しんで生活をしていただきたいという思いから、参加させて頂いている「旅介」。...

る二礼四拍手一礼を一生懸命に行い、約一時間の疑似旅行は大満足で終わりました。次を熱望する声全員から聞かれたのは職員としても嬉しかった。(寿荘機能訓練指導員)



クリスマス昼食会

十二月二十五日にクリスマス昼食会が行われました。食堂前にはクリスマスツリーも飾られ、手で確認をしながら、「これは何？」とツリーの飾りつけを確認されクリスマスの雰囲気を楽しまれました。(寿荘生活相談員)



敬老昼食会

九月十八日は敬老会で日々の食事に変化をつけようと、きのこごはん、天ぷら、さつま芋のバター煮、ほうれん草の菊花和え、すまし汁でした。デザートケーキやゼリーの中から二種類を選んで頂きました。いつもより量も多く種類もありましたが、「あくお腹いっぱいおいしかったわ!」というお言葉に準備した疲れも吹き飛びました。朝から二園分の天ぷらを延々と揚げ続けてくれた調理師に頂いたお言葉を伝えると「ありが

とうございます!」との言葉が返ってきました。食べる人、作る人、加工する人、会場を準備する人、配る人、たくさんの方の力を借りて無事、敬老昼食会は終了しました。

(寿荘管理栄養士)



聖明園富士見荘

ユニットリーダー研修

二月一日から始まるユニットケアに向けて、一昨年度からユニットリーダー養成研修を受

講してきました。現在、講義研修の修了者は九名、履修中是一名となり、計画通り八ユニットに各一名ずつリーダーを配置する事が可能となりました。

受講した研修機関は、日本ユニットケア推進センターと、全国個室ユニット型施設推進協議会ですが、いずれもコロナ禍のため、リモートによる研修となってしまう、研修生同士の情報交換や相談が直接に出来なかつたことは残念でした。また、実地研修も保留となっており、未だ研修修了とはならず、見切りスタートとなってしまうますが、これまでの実践での経験から、良きリーダーとなつてくれると、心強く期待しています。

(富士見荘施設長)



敬老お祝い膳

テレビから台風十四号のニュースが流れていた九月十八日。敬老をお祝いするイベントが行われました。これに合わせて、昼食は茸ごはん・天ぷら盛り合わせ・青菜の菊花和え・さつま芋のバター煮、そして紅葉をかたどった生麩入りのすまし汁と、秋をイメージしたお祝い膳を用意しました。

ポリウムたっぷりで満腹。天ぷらが久しぶりでおいしかったです。菊の花は珍しいね。など、いろいろなお意見をいただき、楽しんでいただけた様子にひと安心。

秋も深まり、季節の食材を取り入れて、皆さんの楽しみとなるよう、これからも工夫をしていきたいと思えます。

(富士見荘管理栄養士)



ラジオ体操の集い



本日は晴天なり。真っ青に広がった秋空の下、富士見荘の屋上に集まってラジオ体操の集いをひらきました。コロナ禍のため一階、二階の利用者さんが顔を合わせるのも久しぶり。挨拶を交わし会話も弾みます。参加ご希望の皆さんが揃ったところで、澄み切った空気を胸一杯に吸い込みながら、かけ声に合わせていち、にい、さん、し、ごー、ろく、しち、はち・・・、換気のない屋上ですが、ソーシャル

ディスタンスを十分にとつて、思い思いに手足を伸ばしました。
(障害者生活支援員)

もうすぐ引越し

業務の合間に、新しい富士見荘の建物やリビングの様子を見て回り、日用品の購入などを相談していく中で、だんだんと引越しの現実が迫ってきていることを実感する毎日です。

ユニットケアがどんなものなのか、ほとんどの職員が経験のない新しい取り組みに、不安や戸惑いは隠せませんが、それ以上に職員みんなが期待と希望を言葉にして、前向きで積極的に準備を進め、行動を見せてくれることに、力と勇気ももらっています。

主任ケアワーカーとして、力不足を実感しつつ、いつも施設長が言う「結果を急がない」「やるべき事ではなく、今やれることから・・・」「ゆっくり丁寧に」を心に、ケアチームの力を寄せ合って、引越しの日を迎えたと思います。

(富士見荘 主任ケアワーカー)

表彰

令和三年度(十一月・十二月)

おめでとうございます

東京都社会福祉大会 令和三年十二月二十四日

東社協会長感謝 萩原聡子(富士見荘)
東社協会長感謝 久我治美(富士見荘)

東京都高齢福祉功績者 令和三年十二月九日

感謝状 牧野尚子(曙荘)

日本盲人社会福祉施設協議会

令和三年十一月十二日

十年勤続 田渕恵子(曙荘)

小峰裕子(曙荘)

関根幸子(曙荘)

内田克幸(寿荘)

三村秀喜(寿荘)

岩瀬 平(富士見荘)

宿谷紀子(富士見荘)

島崎 佐智子(富士見荘)

今後の活躍を期待いたします

ボランティア芳名（順不同）

令和三年九月から十二月までに活動を予定くださっていた方々です。（敬称略）

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一昨年の三月よりボランティアの活動の休止をお願いしております。本来であれば活動を頂いております方々を含め、ご紹介させていただきます。

一・クラブ活動援助

【曙荘】

植草由利・星野ふさ江・栗原法子・伊藤光恵（陶芸）、西村千秋・打越洋子・溝添茂子・狛守美代子・坂本昭子（籐編み）、小松志ず子（器楽）、佐藤朗々（川柳）、菅原弘貴（御詠歌）

【寿荘】

たんぽぽ・みすず会（朗読）、金丸久子（話し相手）、金丸弘志（マッサージ）、平原サカ江（行事手伝い）

【富士見荘】

青梅キリスト教会（聖書朗読）、たんぽぽ（朗読・紙芝居）、青梅傾聴、ボランティアうさぎ（傾聴）

【寿荘】

峯岸初枝・双木かつ枝・伊原久子（民謡）、小松志ず子（コーラス）

【富士見荘】

福本信・田中洋子（歌）、高勝方子（気功）

二・利用者に対する援助

【曙荘】

たんぽぽ・みすず会・高野美令・松尾純子・北島なな子・青梅フリーメソジスト教会（聖書朗読）、ともしび会（縫い物）、青梅ボランティアの会（繕い物）、国立音楽大学学生（音楽療法）、心話の会（傾聴）、千葉陽



森からの訪問客

今日も明るく楽しく心豊かな日々
～利用者の生活～



お月見どろぼう現れるかな？



本沢やきいも DAY 感謝 (^_^)

聖明園曙荘



敬老会 いつまでもお元気でいて下さい。



丹精込めて雑巾縫い

聖明園寿荘



演芸会／花笠音頭



クリスマス喫茶

聖明園富士見荘